

「もう1つの待機児童」

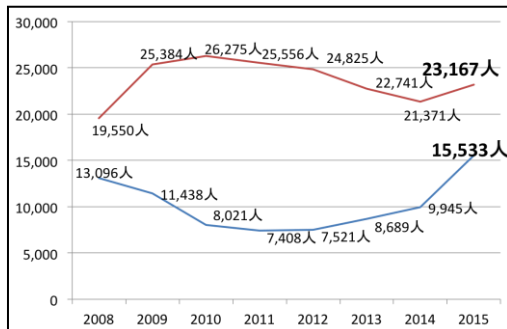
—学童保育の待機児童も急増、保育園に迫る勢い—

—学童保育からの「小学生の肩たたき」現象も発生—

昨今、保育園の待機児童問題についてニュースで大きく取り上げられ、選挙の争点になるなど、世間で注目を集めております。一方その影で密かに小学生の「学童保育待機児童問題」が年々深刻化しています。学童保育の待機児童は2015年現在、約1万7千人（厚生労働省発表）と保育園の待機児童数2万3千人（同発表）に迫る勢いです。学童保育の数も増えているものの、その需要に追いつかず、望んでも学童保育を卒所させられる「小学生の肩たたき現象」も発生しています。

私たち放課後NPOアフタースクールにも、多くの悲痛な保護者の声が寄せられ、また実際に「肩たたき」にあった子どもの保護者がスタッフとして働いてもおります。保育園の待機児童問題の陰で密かに深く進行している「もう1つの待機児童」の問題をぜひ取り上げてくださればと思います。

【背景】



現在、保育園の待機児童は2万3167人（※1）である一方で、学童保育の待機児童は1万6941人（※2）と、近年急に右肩上がりに増加しており、保育園待機児童数に迫る勢いです。

共働き家庭が一般化した今、学童保育そのものが不足しているという問題もありますが、施設面積が狭く、希望者全員を受け入れられないという現実が利用者拡大をできない大きな課題となっています。 ※1 2015年4月厚生労働省調べ ※2 2015年12月厚生労働省調べ

【小1の壁、小4の壁】

保育園には入れたが、小学生になると放課後の預け先が質・量ともに不足していて、結果として仕事を辞めざるをえないという社会問題「小1の壁」が、働く保護者にとっての最初の関門となります。また学童保育は受け入れを3年生までとしていたところも多く（34.8%）※2、4年生で子どもの預け場所なくなる「小4の壁」も発生しています。また4年生以上を受け入れていても、実態として4年生以上が通いたい魅力的な施設も少ないという声も聞こえてきます。さらに最近では学童希望者が急増し、4年生なる前に小学校2年3年の段階で学童保育を「肩たたき」になるケースも多くなっております。

※2 2015年8月全国学童保育連絡協議会実施状況調査

《保護者の声》…インタビュー可能です

Yさん「今年小学4年生になる娘は継続を希望しましたが学童保育を卒所しなければならず、さらに短い時間での勤務となってしまいました。これまで一緒に放課後を過ごしていたお友達とも遊びづらくなるので子どもにとっても環境の変化が辛いようです」

私ども団体スタッフの一人が、まさに「小4の壁」問題に直面しました。結果として彼女は時間短縮勤務をすることで仕事との両立が叶いましたが、職場によっては辞めざるを得ない状況も考えられます。

【政府の動き】

「子ども・子育て支援新制度」が平成27年度より施行され、学童保育の対象が小学校6年生までになりましたが、上記のことで結果的には待機児童が急増する結果になりました。また政府は平成26年7月に「放課後子ども総合プラン」を提示し、学童保育を5年間で30万人拡大する指針を出していますが、現場では学童保育拡大ならではの難しさもあり、対策が間に合っていない状況です。

【学童保育ならではの難しさ】

保育園では受入数を増やすべく様々な取り組みが進んでいます。
学童保育でも拡大が進んでいますが、保育とは異なる難しさが学童保育拡大にはあります。

<学童保育拡大の3つの壁(人・場所・金)>

	学童保育	保育園
人	<ul style="list-style-type: none">・人の確保が保育園より困難 ～保育園より低労働条件・条件厳しく株式会社も消極的 ～株式会社比率は3%に留まる	<ul style="list-style-type: none">・保育士不足が深刻・株式会社参入も進み担い手は拡大
場所	<ul style="list-style-type: none">・場所の確保が困難 ～小学校近辺の場所が必要 ～小規模保育ではもたない ～迷惑施設とされる	<ul style="list-style-type: none">・多様な場所を活用 (企業内、小規模保育)
金	<ul style="list-style-type: none">・資金不足が蔓延 ～年間1000万円程度の予算規模 (保護者負担と補助金で半々) ～保育園対策が優先される状況	<ul style="list-style-type: none">・徐々に資金投入を拡大

【放課後NPOアフタースクールの取り組み】

放課後NPOアフタースクールはこのような状況を受けて、アメリカで放課後対策として全土に広がった「アフタースクール」をモデルに、学校の中で行う「安心安全な預かり(学童保育)」と「豊かな体験(プログラム)」を両立させた新しい放課後づくりを進めています。保護者が安心して子どもを預けることができる環境を整えると同時に、子どもたちも様々な人や環境と接し、チャレンジ意欲や自信を育むことができる放課後環境の構築をめざしています。

アフタースクール見学も可能ですので、まずはお気軽にお問い合わせください。



【お問い合わせ先】特定非営利活動法人 放課後 NPO アフタースクール

《TEL》03-6721-5043 《Mail》: k_satoh@npoafterschool.org (担当: 佐藤)

《所在地》〒105-0004 東京都港区新橋6-18-3 中村ビル2F

《URL》<http://www.npoafterschool.org/>

代表理事 平岩国泰(文部科学省中央教育審議会専門委員)

